

山岳ぐんま

理事長就任にあたって



群馬県山岳連盟理事長

名塚 秀二

この度、八木原園明理事長の四期八年という任期の後を受けて、理事長という重責を担わせて頂くことになりました。

会員の皆さんや関係団体の協力を得て、山岳連盟や登山界の発展のために微力を尽したいと思っております。基本的には、これまでの活動を踏襲、推進していくことになると思います。

今年度の総会時点で、岳連加盟団体は二十八団体であります。理事會へ出席し協力して頂いている団体は十一から十二団体と、誠にさびしい理事會になっております。近年は若い会員の理事會への参加も少なく、一年経つことに理

事の平均年齢も一つ上がってしまったという現実です。

岳連の年間行事の中で、大きなイベントとしては、秋の山田昇記念杯登山競争大会と、県民登山大会の二つがあります。そしてどちらとも、スタッフとして大勢の人の協力や、主管山岳会としての尽力を必要とする行事です。他にも数年に一度の割合で、団体のプロック予選や、全日本登山大会等の行事が入ることがあります。このような行事への協力と参加を、各加盟団体にお願したいと思っております。どうすれば、多くの関係者に参加してもらえるかを、会員や役員の皆さんから意見を頂き、各部会、

理事會などで考えて頂きたいと思っております。

各部会が行っている行事で各会との交流も大切な行事の一つです。山岳連盟は各山岳会の集まりです。基本的には、個人が所属している山岳会の組織をまとめ、活動していきますが、会独自ではできない行事や活動を、各部会で取り上げて行うことが望ましいと考えています。

各山岳会が、それぞれ後継者を求めているように、岳連でも次の世代を担う人材を求めています。各部会の行事を行うには、それぞれの山岳会が推薦する会員に活動する機会を与えることが必要で、各部会への積極的な参加を要請して、行事を行う時には、他の部会や他の山岳会からも推薦してもらい、活動しやすい環境作りをして頂きたいと思っております。

近年の遭難事故は、未組織者で、一般ルートでの中高年者の怪我などが多いようです。現在、水上町によって山岳博物館建設への計画が進められておりますが、完成後の博物館を活用して、過去の登山用具や資料の展示だけでなく、水

上町と協力して、主に初級者を対象とした、読図・気象などの基礎知識や技術の修得を目的とした講習会を行い、水紀行館の今ある人工壁なども利用して、一般ルートでも所々に出てくる岩場などでの歩行、手掛かり・足掛かりの通過の方法を教えて、自分の力で歩き登ることに伴う達成感を体験でき、より安全で楽しい登山が行えるよう、遭難防止に役立てていければと思います。

文部科学省は十年後を目途に、「地域総合型スポーツクラブ」の設立を目指しております。これは山岳界だけでなく、あらゆるスポーツ団体が参加して、地域(市町村)にスポーツクラブを創設して、当初は各自治体から施設を借り受け、スポーツクラブは会員から会費を徴収し、運営・管理を独立採算に持つていく構想を打ち出しております。群馬県内でも、粕川村をモデル地域として、二年前より取り組みがスタートしており、岳連内でもどのような取り組み方をしたいらよいか議論を重ねて行きたいと思っております。

国体山岳競技県予選

群馬岳連国体部

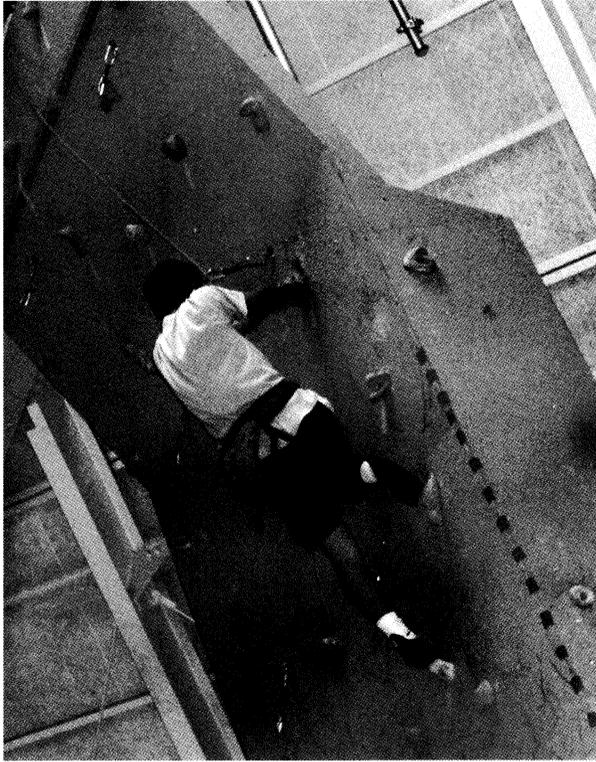
角 田 一三三男

平成十四年度県民体育大会第二部山岳競技会(国体予選)が四月二十日(土)・二十一日(日)の二日間わたって開催された。

今年度の第五十七回高知国体から少年の部で本県得意種目の踏査競技が廃止され、代わってクライミング競技が導入される。群馬高体連では数年前からクライミングに取り組み、底辺の拡大と技術の向上を図ってきたが、県中部にクライミングボードがなく、万場高校や水上町の水紀行館などで練習してきた。まだまだ発展途上であり、今後数年間は見通しは厳しいと言わざるを得ない。

そのような状況の中で、今年度の参加者数の減少を心配していたが、男子三十七名、女子十二名のエントリーがあり、底辺拡大の兆しを感じた。

新種目のクライミングでは、男



種別が出場を果たし、特に少年男子は最後の年の踏査競技で見事一位を獲得し、我々を大いに喜ばせてくれた。今年から種目は変わるが、とりあえず関東ブロック大会に向けて頑張ってほしい。

《日程(会場)》

20日(土)

開会式・クライミング

(倉渕村クライミングガルテン)

21日(日)

縦走競技(杏ヶ岳南面)

閉会式(榛名高校)

縦走の男子では、日部貴博が二位に3分の差をつけ、女子は田口照子が2分差で二冠に輝き、昨年度代表選手としての実力を見せた。昨年のみやぎ国体では群馬は全



- 3位 蘭田 佳子(沼田女)
- 4位 角田 麻実(沼田女)
- 5位 長谷川千秋(中央高)
- 6位 近藤 友里(中央高)

《第57回国体関東ブロック大会》

8月24日 クライミング競技

(習志野市東部体育館)

25日 縦走競技

(君津市清和県民の森)

群馬チーム成績

- 少年男子(選手 高橋昭彦、日部貴博、堀込悟。監督 長谷川喜久男)
- クライミング競技 第3位
- 縦走競技 第2位

総合 第1位(出場権獲得)

- 少年女子(選手 田口照子、蘭田佳子、長谷川千秋。監督 橋爪俊之)
- クライミング競技 第4位
- 縦走競技 第3位

総合 第3位

- 成年女子(選手 法領田恵、斎藤さく代、若岡紀久子。監督 赤松久宇)
- クライミング競技 第7位
- 縦走競技 第4位

総合 第6位

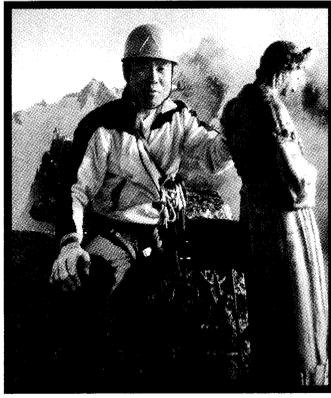
《総合成績》

少年男子

- 1位 大竹 隆宏(利根実)
- 2位 高橋 昭彦(前橋高)
- 3位 丸山 剛志(高崎高)
- 4位 田島 諭(高崎工)
- 5位 大河原雅文(高崎工)
- 6位 日部 貴博(高崎高)

少年女子

- 1位 田口 照子(沼田女)
- 2位 和栗 菜実(高経附)



大山洋次君を偲んで

会 長 小 暮 文 彦
境 町 山 の 会

大山洋次君、このような形でお別れするとは夢にも思いませんでした。

大山君が入会した頃の印象は、赤城のガランへ氷瀑登りに行った時のことで、君はまだ岩登りの経験が一度もなかったにもかかわらず、何とか登ってくるのを見た時です。なかなか頼もしい奴だと思えました。君は、これをきつかけに、岩登りにのめり込んでいったように思います。

島根国体から始まり、十数回も国体に出場。その体力を維持するためのトレーニングは常に欠かさず続けられていて、若い頃、一ヶ月で八〇〇キロメートル以上走っていたと聞きました。また、よく西黒尾根へ行きましたが、これを一日二往復とか、越後駒ヶ岳から八海山までを一日で走ることもやっていた。この山行では、私は大山君を、駒の湯へ朝六時に送って行き、車で戻り八海山へ。小屋でのんびり待っていたのですが、私が考えていた時間より早く、午後二時には着いていました。このコースを八時間しかかけてないのです。これも日頃の走り込みの結果だろうと思います。

ランゼを計画した時のこと。大山君はビール二本と水五〇〇cc、私は水一リットル。この日は暑く、本谷バンドに着いた時は水は少ししかなく、本谷バンドでも補給できず、三ランゼは諦めて下山しようと言っていると、大山君は、稜線に出たらビール一本飲んでくださいと言いつつ出たのです。水の量を考えれば何を言われても無理であるので、大山君を説得。本谷バンドにてビール二本を気持ちよく飲んでもらい下山しました。

チヨモランマでは、なぜ八〇〇メートルの経験がないのにも拘わらず無酸素にこだわったのか、誰にも判らないことですが、大山君の自分との戦いではないかと思えます。

大山君の思い出の一部を断片的に書きました。文章が整わないこととお詫び申し上げ、最後の言葉とします。

大山君のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

《大山洋次君事故報告》

8/16(金)晴

境町山の会の夏山合宿で、会員六名で、扇沢から室堂経由で剣沢キャンプ場に入山。

8/17(土)晴

剣沢キャンプ場から別山尾根経由で剣岳へ往復。

8/18(日)晴

剣沢キャンプ場で山の会会員と別れ、一人で樺平へ向かう。阿曾原温泉キャンプ場へ14時30分頃着。小屋管理人の佐々木氏にテント場使用は一泊のみで、明日樺平に下山の旨を伝える。夕方、十字峡から戻った登山者の話を聞いて、十字峡へ向かうことに予定を変更。

8/19(月)曇りのち雨

7時10分頃、「十字峡へ行ってくると佐々木氏に伝え、テントはそのままでサブザックに装備を移し十字峡へ向かう。午後、天気

が崩れ雨が強くなる。19時頃になってもキャンプ場へ戻らないので、佐々木氏が警察へ連絡する。

8/20(火)雨のち曇り

朝になり戻った様子がないので、7時頃佐々木氏と従業員一名が捜索にでる。天候は小雨、霧雨が降ったり止んだり。10時30分頃、十字峡から約七〇〇メートル上流で黒部川に人が浮いているのを発見。運動靴に「大山」と名前が書かれていたことから、本人と断定。へりを要請し、山岳救助隊が一人加わり、三名で収容作業を行う。12時頃へりに遺体を収容し、燃料の関係で一度上流の太郎兵衛平へ降りる。天候不良のため、太郎兵衛平から岐阜県回り15時上滝側河川敷へリポートに着。上市署に車で搬送、15時30分着。

現場及び発見時の状況

転落現場と思われる場所は、河原まで70メートルの高さがある一枚岩で傾斜が約50度。発見時、遺体の腰の部分に上部登山道から落ちて来たと思われる直径30センチほどの石のついていた。登山道転落現場の頭部上方に岩の剥離跡が見られるが、直接の原因かは不明。発見時は、長袖ポロシャツ、ジャージ、運動靴を着用。死亡原因は、頭頂部陥没骨折による脳挫傷により即死。その他、左あごに約10センチの裂傷、左足首の開放骨折あり。

ビールが好きだった大山君。会の集会が終わると境町の居酒屋山水へ。山から帰ると下山祝いと言っては山水へ。また、会の事務所でもよく飲んでいましたが、春夏秋冬、いつでもビールです。

若い頃、一ノ倉沢コップから三

ランゼを計画した時のこと。大山君はビール二本と水五〇〇cc、私は水一リットル。この日は暑く、本谷バンドに着いた時は水は少ししかなく、本谷バンドでも補給できず、三ランゼは諦めて下山しようと言っていると、大山君は、稜線に出たらビール一本飲んでくださいと言いつつ出たのです。水の量を考えれば何を言われても無理であるので、大山君を説得。本谷バンドにてビール二本を気持ちよく飲んでもらい下山しました。

チヨモランマでは、なぜ八〇〇メートルの経験がないのにも拘わらず無酸素にこだわったのか、誰にも判らないことですが、大山君の自分との戦いではないかと思えます。

大山君の思い出の一部を断片的に書きました。文章が整わないこととお詫び申し上げ、最後の言葉とします。

大山君のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成十四年度 群馬県山岳連盟登山教室まとめ

群馬県山岳連盟指導委員会 日向野 克己

一、はじめに

中高年を主体にした登山は、今年も益々盛んで、その範囲も県内の山から北・中央・南アルプスにも及び、ほとんど全国的な規模に広がっている。

また、それに比例するかのよう
に登山事故も増え、その発生率は、
中高年者が圧倒的に多いのも事実
である。

事故の発生原因の内容を見ると、
そのほとんどは山に対する知識・
技術の未熟さによるものであり、
自分の力量を無視した入山による
といっても過言ではない。

特に中高年者は、体力的には例
外なく下降線をたどっており、若
い時に比べれば圧倒的に弱くなっ
ているのであるが、今日、高年齢
時代と言われ、所謂「老い」に対
する考えかたも昔とは違い、とか
く自己の体力に対する過信の傾向
があるのかもしれない。

したがって、その衰えた体力を
カバーする技術・知識がなければ、
山の過酷な条件下にあつては、悲
惨な結果に陥るのは、至極当然な

ことともいえるのである。

こうした現状を見るにつけ、こ
の岳連主催の登山教室が果たす役
割は実に大きいものがあると思っ
るのであるが、この教室も回を重ね
るに従って、ごく最近では一般社
会の中にその意義が認知されつつ
あることもまた事実である。

こうした近年の社会的背景のな
かに、今年の登山教室も開催され
たのである。

二、今年度の登山教室概要

今年度の登山教室は、次の日程・
内容で行われた。

第一回 九月三日(火)

会場：前橋生涯学習センター
開講式・座学「地図の読み方・
コンパスの使い方」講師・高橋
守男（B級山岳スポーツ指導員）

第二回 九月八日(日)

登山実技・会場・三国山
班別編成による実技指導・三
国峠より三国山往復。四つの班
にそれぞれ二名の指導員がつい
て総合的な登山実技の指導。

第三回 九月十日(火)

会場：前橋生涯学習センター

座学「山で役立つテーピング」
講師 中原正喜（A級山岳ス
ポーツ指導員）・特にキネシオ
テープを用いたテーピングの実
際。

第四回 九月二十九日(日)

登山実技・会場・赤城山（利平
茶屋より長七郎山往復）

四班編成・それぞれの班に二
名の指導員を配置しての実技指
導。

第五回 一〇月九日(水)

会場 前橋生涯学習センター
「登山のまとめ」・閉講式・修
了証交付・「登山のまとめ」では、
講座全体からの質疑応答を中心に、
普段の山行で抱いた疑問、質問な
どをまとめて討議の形で施行した。

今回受講者数52名。内皆勤の30
名に修了証を交付した。

三、登山教室の内容

1 座学について

「地図の読み方・コンパスの
使い方」については、毎年の中
点項目で、今年も最初に実施し
た。登山技術の中で最も重要な
ことは、読図、つまり地図が正

確に読みとれて、コンパスを併
用することにより、より精密に
地図を使いこなすことができる
ことである。

毎年遭難事故の原因のトッ
プになつている「道迷い」は、
読図ができればかなり防げるは
ずである。この技術習得には反
復練習など、かなり時間がかか
り、理解させることはなかなか
容易ではないが、今年は、講師
がパソコンなどを使用して視覚
的な面での指導の試みもあり、
かなり浸透したのではないかと
思われる。

「テーピング」は、今回、キ
ネシオテープを使った、実際場
面に即応できる技術として導入
した。所謂、スポーツテーピン
グといわれるものは、損傷した
部位の固定ということに重きを
おいたものであるが、このキネ
シオテーピングは、捻挫をはじ
めとする損傷部位にテープをは
ることにより、自力で動くこと
が可能というところに特徴があ
る。

すでに登山者の間では大分普
及してきており、受講者からの
要望もあつて、再度の取り入れ
となつた。講師も国体のトレイ
ナーなどを勤めた経験から、
様々な症例なども引用しながら
「実際に役立つ」という観点で
の座学となつた。

2 実技登山について

今回は、三国山と赤城・長七
郎山で実施した。

いずれの山も、登山の基礎を
学ぶにはふさわしい環境を備え
ており、班編成による行動で、
かなり細かいところまで指導が
行き届いたと思われる。

◎実技登山の指導重点項目の概要
は次の通りである。

- ①行動予定、メンバーの確認
- ②ウォームアップ・クールダウン
- ③歩行技術
ストレッチによる準備運動・
整理運動の徹底。
- ④地形図・コンパスを使いこなす。
靴の履き方から様々な地形に
応じた歩き方まで。
- ⑤天気判断
観天望気から荒天対策まで。
- ⑥登山装備について
日帰り登山からテント泊まで、
それぞれに応じた装備。装備
の工夫。
- ⑦救急措置
簡単な救急法の知識。キネシ
オテーピング。
- ⑧緊急時の対策
フォーストビパーク。事故防
止とその対策。

⑨山のマナー

自然保護を中心に。

⑩トレーニングについて

日常のトレーニングの方法。体力作り。

四、登山教室のまとめ

前回同様、今回も最終日に「登山教室のまとめ」として座談会形式による参加者全員の討議を行った。

まず自己紹介を兼ね、感想、日ごろ各自が抱えている登山行動についての疑問、質問などを出してもらってから討議に入った。

(参加者の感想)

発言のときに、今回の登山教室の感想を述べてもらったが、学んだことが実際に役立ち、即戦力になったといった趣旨の感想がほとんどで、この教室の意義が、徐々に浸透してきていることを感じさせた。「初めて読図によって山の位置がわかった。」「疲れづらくなった。」「ウォームアップ、クールダウンをするようになって、体の痛みがなくなった。」「靴紐の結び方・装備のコツなどが解った。」「テーピングができるようになった。」「山の知識がないと危険だとわかった。」など、その一例である。さらに、来年もまた参加したいというリピーターが増えてきたのも、ひとつのよい傾向を示しているのではないかと思われる。

(参加者の質問から)

山を始めれば、当然のことである

るがいろいろの疑問がでてくる。

そして、その時にすぐその問題を解決してもらえれば進歩は早い。

今回も多くの質問が提出され、指導員が即答するようにしたことで、かなりの効能があつたのではないかと思われる。

具体的な質問事項とは、例えば「登山でよく見かける何合目と

わがで信頼できるものは「日本の山でも高度計は役立つか」「疲れな

いペース配分とは「普段のトレーニングはどうか」「ガイドブックのコースタイムはどう考えればよいか」「息切れしない歩き方は」「荷を軽くするには」など。

質問に関しては、前に説明したと思われることが重ねて提出されるといふことも多く、一見、進歩がないのではと感じることもあるが、それはやはり違うのであって、

実際に確かめつつ、何度も繰り返しながら身につけていくのが真の技術というものであろうと思う。

登山活動は、特に知識と経験の集積が重要であり、その繰り返しであることから、この種の講座は、やはり息の長いものであるべきことが分かるように思う。

昨年

後の問題点としてあげておいた幾つかの項目があるが、その一つで

ある「さらにもう一歩上の技術の習得を希望する層」に対する手だては、今回具体的な形としては統一的に実施されなかった。

この講座の趣旨は、何の知識も技術もなく、素手で山に入つて事故を起こす人を少しでも減らすということを狙つたものであり、登山はあくまでも基本が大事ということをまず徹底させることを主眼にしたものであるからである。

しかし、実地登山のなかでは、ロープの扱い方や雪上技術に触れた話題もあり、指導員のザックから出されてくる様々な道具から、そうしたことに触れた時間もあつたということである。

登山講座の目的は、今日社会問題にまでなっていないながら、まだ具体的には手のつけられていない登山の啓蒙活動に対して、地道な努力を続けていくところにあると思う。

「いままで、全く何も分からないままに山に入り、いわゆる自己流でやっていたが、こうして改めて山の知識・技術を学んでみると、今までのことが怖くなった。」というのは、ある受講生のことであるが、これこそ、いまわれわれが狙っている登山教室の本旨であり、こうした気持ちになってくれる人がひとりでも多くなつてくれることが、われわれの喜びでもある。



湯檜曾川本流

沢登り講習会に参加して

山 本 ひろこ

団体行動の苦手な私がこうした講習会に参加しようと思ったのは、もともと行き先の見える尾根よりも先の見えない沢が好きだったこともあるが、大間々山岳会の鹿沼さんに誘われたからでもある。彼女は私が連載コラムを載せている白山書房の「山の本」の定期購読者という奇特な人だった。

私は地元クラブに入っていないため講習会など縁はなく、県に山岳会というものがあることさえ知らなかったし、大間々町に山会があることさえ初めて知った。袖触れ合うも多生の縁と思い、参加したのだった。

今回の講習会は奥山岳連盟の主催で、「岩遊」の豊野さん、「ヤマセミ倶楽部」の竹内さんたち講師陣のもとに沢好き人間たちが大勢集まった。皆本格派の沢スタイルに着替えており、その電気工事士のような格好に私はひるんでしまった。なぜなら私の装備はというとヘルメットは鹿沼さんが貸してくれたものの、安物の沢靴、もらいもの特大ハーネス、拾った命綱、たった一つのカラビナなどなのである。また、年齢も私がいち

ばん上ではないだろうか。そんなこんなで初っ端から自分がこの場にふさわしくないようにいたたまれなくなった。

芝倉沢出合から湯檜曾本流の川原に下り、講師からちよつとした沢登りの説明があるとすぐに私はち水に入った。最初は膝ほどの深さの流れの横切り方や三人での徒渉。まあ、そこまでは誰にでもできる。ところが、棒を頼りに急流を横切る練習では五十人のうち私だけが流れに負けてひっくり返った。このくらい簡単と思ったのに身体がいうことをきかない。朝ご飯を食べなかつたからなのか。これが最初の自信喪失だった。

その後、腰、胸までと徐々に水深が増し、武能沢出合のF1からは本格的に沢を泳ぐことになる。泳ぐといっても、水着に着替えるのではなく、服はそのまま、肩のリュックも担いだまま。泳ぐのは最悪の事態の時だけではないのだろうか。でも、これはそのための親切な講習会なのである。話には聞いていたけれど、カナヅチの私には過酷な試練にしか思えない。ふと鹿沼さんを見ると水面を見

下ろすその目が輝き、明らかに至福に浸っている。泳ぎ終わった女性たちも喜びに満ち溢れ、全身から水を滴らせている。みんな次々飛込むので私も恐る恐る水に入り、どうにか5m先の岩にしがみつくとできた。

だが、次に続く滝のシャワークライムは足場も手がかりも探し出せず滝から振り落とされ、私だけがロープの厄介となる。この時点で自信喪失というより「身の程知らず」という言葉が脳裏に強く浮かび、濡れた身体が突然寒さに打ち震え出した。

そして、次の難所は極め付けの岩登りだった。滝の側面の崖に設置されたロープを頼りにカラビナを着脱しながら三十mほど進むのである。確保なしでは足を滑らせると命はない。以前、たいしたことのない沢で鼻骨を折り、顔面を十一針も縫った経験のある私は人一倍怖がりて高所恐怖症になっている。また、帰りは再びこの崖を下ると聞いて心臓が破裂しそうになった。心優しい鹿沼さんは私の蒼白な顔を見て、「戻りましょうか」と言ってくれた。それでは申し訳ないので「大丈夫」と心とは裏腹に答えたが、歯がガチガチと音を立っている。でも、親切な若い補助講師さんが、私の特大ハーネスを細工しカラビナを付け足して、丁寧にリードしてくれたのでどう

にか難所を登り切った。

その後、滝壺泳ぎに挑戦し、終いには手がかりの全然ない廊下状の縁を上流に向かった。廊下は深いので恥も忘れて私だけがライフジャケツトを借りた。ところが、ジャケツトは浮力が強すぎて進まず、大間々山岳会のAさんが私を蹴り続けて進ませてくれた。

十字峡手前の滝の下がこの日の折り返し地点で、そこで記念写真に収まるが、最後に着いた私一人が前列でライフジャケツト姿である。この講習会では何をしても私だけが遅れ、私だけが哀れにも失敗するのだった。これでは誘ってくれた鹿沼さんや大間々の人たちに申し訳ない。夕食は私のおごりだとも思いつめる。ようするに身の程知らずもよいとこなのだ。

帰宅して、山歩きに興味のない

夫にこの日の体験を隔々まで語つたら、「で、どこの国と戦う訓練だったのかい?」と呆れたように言った。よくよく考えると確かにあれはゲリラ戦か何かの訓練といつてもちつともおかしくない。趣味とはいえこれは尋常な世界とはいえない。本当に人間って面白い。さて、来年、私は沢靴を履くのか履かないのか、それが問題である。

講習会メモ

とき 平成十四年九月一日

ところ 湯檜曾川本谷

講師 豊野則夫(山岳渓流会岩

遊代表)、竹内秀樹(ヤマ

セミ倶楽部代表)、清野啓

介(沼田山岳会)

参加者 四十七名

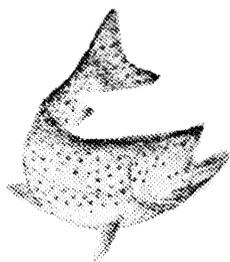


味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店



高 橋 石 杖

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

TEL:03(5245)0511
FAX:03(5245)0510
(株) ティ・エッチ・アイ

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

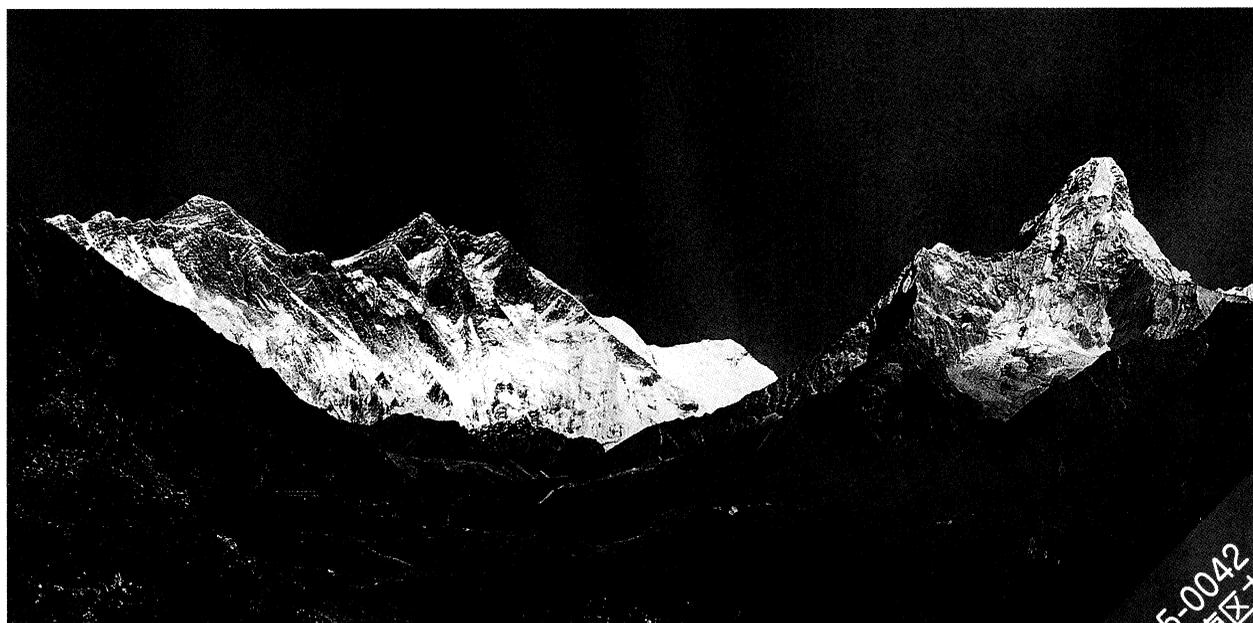
ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

〒135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業
萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 **沼田自動車教習所**

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店
有限会社 **丸萬石油**

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場
建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業
株式会社 **鈴木工業所**

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション
萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964